

心理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
心理学特論Ⅰ	心理統計法	2	倉元 直樹	1学期	月	2	1
心理学特論Ⅱ	態度と説得	2	今城周造	集中(2学期)			2
心理学研究演習Ⅰ	知覚・注意・動作・感性 研究の最近の展開	2	行場 次朗	1学期	火	2	3
心理学研究演習Ⅱ	感情心理学の展開	2	阿部 恒之	2学期	水	1	4
心理学研究演習Ⅲ	応用心理学(行動経済 学)の文献研究	2	坂井 信之	1学期	水	3	5
心理学研究演習Ⅳ	犯罪・非行研究の展開	2	荒井 崇史	2学期	木	2	6
心理学研究演習Ⅴ	コミュニティと文化	2	辻本 昌弘	1学期	木	2	7
心理学研究演習Ⅵ	Fundamentals of Psychological Measurement	2	倉元 直樹	2学期	月	2	8
心理学総合演習Ⅰ	特選題目研究Ⅰ	2	阿部 恒之、行場 次朗、 辻本 昌弘、坂井 信之、 荒井 崇史	1学期	金	5	9
心理学総合演習Ⅱ	特選題目研究Ⅱ	2	阿部 恒之、行場 次朗、 辻本 昌弘、坂井 信之、 荒井 崇史	2学期	金	5	10
心理学研究実習Ⅰ	心理学実験技法実習Ⅰ	2	阿部 恒之、行場 次朗、 辻本 昌弘、坂井 信之、 荒井 崇史	1学期	火	3、4	11
心理学研究実習Ⅱ	心理学実験技法実習Ⅱ	2	坂井 信之、阿部 恒之、 行場 次朗、辻本 昌弘、 荒井 崇史	2学期	火	3、4	12
実験心理学特論	ストレスと化粧の社会 生理心理学	2	阿部 恒之	1学期	水	1	13
実験心理学特論	知覚・認知心理学の展 開	2	行場 次朗	2学期	月	5	14
社会心理学特論	犯罪・非行の社会心理 学	2	荒井 崇史	1学期	金	3	15
社会心理学特論	文化と人間行動	2	辻本 昌弘	2学期	金	2	16
応用心理学特論	神経・生理心理学	2	坂井 信之	2学期	水	3	17

課題研究 (心理学)		4	阿部 恒之 行場 次朗 辻本 昌弘 坂井 信之 荒井 崇史	通年	水	5	
---------------	--	---	-------------------------------------	----	---	---	--

科目名：心理学特論 I / Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：倉元 直樹 (兼務教員)

講義コード：LM11207, **科目ナンバリング：**LHU-PSY601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理統計法

2. Course Title (授業題目)：

Basic Statistics useful for Psychology

3. 授業の目的と概要：

量的データを用いた研究法を念頭に、データ分析に必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを予想しておいてほしい。

4. 学習の到達目標：

初等統計学の基礎的概念の習得。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1 コマ)

2. 記述統計学 (統計とは何か, 変数とデータ, 尺度の水準, 度数表, クロス集計表, 連続変数, 離散変数, 多変量データ, 連続データの度数表, ヒストグラム, 累積度数折線, 数値による分布の要約 [モーメント系, 分位数系], 2 つの変数の関係 [相関係数, 回帰]) (6 コマ)

3. 調査の基礎理論 (古典的テスト理論 [妥当性と信頼性, 信頼性係数の推定と向上]) (2 コマ)

4. 推測統計学 (確率, 条件付確率, 確率分布, 二項分布, 正規分布, 確率密度と確率, 記述統計学と確率モデル, 統計的仮説検定, 帰無仮説と対立仮説, 検定の手続き, 有意水準と検出力, 連続分布と離散分布, 微分・積分, 期待値, 標本平均の期待値とその分散, 標本分散の期待値, 正規分布, 標本平均の分布, 様々な手法から実験計画へ [期待度数と実測度数, 分割表の独立性, 相関係数の検定, 対応があるデータの平均値, 符号検定], 分散分析の基礎) (6 コマ)

6. 成績評価方法：

期末考査 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席状況 [40%程度]

7. 教科書および参考書：

教科書：自作プリント (ISTU にアップロードする予定)

参考書：中村知靖, 松井仁, 前田忠彦共著, 2006, 『心理統計法への招待』, サイエンス社

8. 授業時間外学習：

8 回のレポート課題を課す予定。授業時間外に予習、復習を奨励する。ISTU 教材の利用も可能とする予定。

9. その他：

科目名：心理学特論Ⅱ／ Psychology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）， **単位数：**2

担当教員：今城周造（非常勤講師）

講義コード：LM98830， **科目ナンバリング：**LHU-PSY602J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

態度と説得

2. Course Title (授業題目)：

attitude and persuasion

3. 授業の目的と概要：

私たちが生きていくうえで、環境をどう評価し、環境とどう関わって行くかは重要なテーマである。環境内の対象への評価と行動は、態度と深い関係がある。態度の形成と変化、生活における態度の役割について、幅広く解説していく。

4. 学習の到達目標：

態度と態度変化に関する社会心理学の代表的な理論と研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 態度概念：狭義には/広義には
2. 態度測定：どの側面をどう測るか
3. 態度形成の規定因：どうしてそう考えるようになるか
4. 態度機能：態度は何の役に立つか
5. 態度強度：ぶれない態度/ふらつく態度—違いは何か
6. 態度-行動関係：態度が行動をもたらす/その逆も？
7. 態度変化の諸相：どの方向へどの程度
8. 説得の構成要素：それは説得ではない
9. 説得の中心ルート：よく考えて意見を変える
10. 説得の周辺ルート：直観的に意見を変える
11. 説得過程の諸理論：意見が変わる多様な理由
12. 説得への抵抗：「聞き流す」「拒否する」
13. 態度と文化：日本ではそうでもない？
14. 健康に関する態度と説得：Health communication
15. まとめと試験

6. 成績評価方法：

平常点 30%（コメントカードによる）、筆記試験 70%

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は講義内で紹介します。

8. 授業時間外学習：

予習よりも復習を重視します。資料を毎回配布しますので、それをもとに学習を進め、前回の講義の内容をよく理解したうえで出席してください。

9. その他：

科目名：心理学研究演習 I / Psychology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：行場 次朗 (教授)

講義コード：LM12209, **科目ナンバリング：**LHU-PSY603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

知覚・注意・動作・感性研究の最近の展開

2. Course Title (授業題目)：

Trends in Perceptual, Attentional, Kinetic, and Affective Psychology

3. 授業の目的と概要：

知覚・注意・動作・感性に関する心理脳科学的研究の最先端に迫る。

4. 学習の到達目標：

知覚・注意・動作・感性研究の諸分野にわたる最新の心理脳科学的研究例や、各自の研究を具体的に取り上げ、基本的に英語でプレゼンテーションを行いながら、研究の目的、方法、結果、考察などの斬新な点と、研究展開の妥当性などについて演習を通じて議論しあう。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 英語でのプレゼンテーションの基本的な方法
2. 知覚研究についてのプレゼンテーション 1
3. 知覚研究についてのプレゼンテーション 2
4. 注意研究についてのプレゼンテーション 1
5. 注意研究についてのプレゼンテーション 2
6. 動作研究についてのプレゼンテーション 1
7. 動作研究についてのプレゼンテーション 2
8. 認知研究についてのプレゼンテーション 1
9. 認知研究についてのプレゼンテーション 2
10. 感性研究についてのプレゼンテーション 1
11. 感性研究についてのプレゼンテーション 2
12. 応用研究についてのプレゼンテーション 1
13. 応用研究についてのプレゼンテーション 2
14. 応用研究についてのプレゼンテーション 3
15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

出席 (30%)、発表 (40%)、討論への参加 (30%)

7. 教科書および参考書：

必読すべき研究論文を演習中に指示する。

8. 授業時間外学習：

演習中に関連する文献検討や実験・調査について指示を出すので、各自、参考にして理解を深めること。

9. その他：

オフィスアワーは特に設けないが、質問、問い合わせがあれば、gyoba@m.tohoku.ac.jp まで、連絡すること。

科目名：心理学研究演習Ⅱ／ Psychology(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之（教授）

講義コード：LM23102, **科目ナンバリング：**LHU-PSY604J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

感情心理学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Development of emotion science

3. 授業の目的と概要：

感情心理学の古典と最新の論文を取り上げ、発表と議論を通じて感情心理学の理解を深める。

キーワード： 末梢起源説・中枢起源説・ソマティックマーカー仮説・行動経済学

4. 学習の到達目標：

感情研究の展開を歴史的な観点から考えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

まずは授業全般に関わる見通しを講義する。3 回目以降は、発表と討議を中心に授業を行う。

履修人数によって変更はあるが、各人が 3 回程度の発表を行うことを目指す。

1 回目 ガイダンス・講義（感情研究史）

2 回目 講義（心理学と生理学）

3 回目 発表と討議（1 組目）

4 回目 発表と討議（2 組目）

5 回目 発表と討議（3 組目）

6 回目 発表と討議（4 組目）

7 回目 発表と討議（5 組目）

8 回目 発表と討議（6 組目）

9 回目 発表と討議（7 組目）

10 回目 発表と討議（8 組目）

11 回目 発表と討議（9 組目）

12 回目 発表と討議（10 組目）

13 回目 発表と討議（11 組目）

14 回目 発表と討議（12 組目）

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、平常点と 3 回程度の発表（50%）

7. 教科書および参考書：

授業中にプリント等を配布する。web 経由での配布もあり。

8. 授業時間外学習：

自ら担当するテキストを読み、内容をわかりやすく要約し、パワーポイントで発表資料を作成する。授業 2 日前までにメール添付で提出すること（詳細は授業中に指示）。他の受講生の発表資料もコンピュータ上で閲覧できるようにするので、自分が発表当番でないときは、それを予習して授業に臨むこと。

9. その他：

科目名：心理学研究演習Ⅲ／ Psychology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LM13308, **科目ナンバリング：**LHU-PSY605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

応用心理学（行動経済学）の文献研究

2. Course Title（授業題目）：

Seminars on Applied Psychology and Behavioral Economics

3. 授業の目的と概要：

この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

4. 学習の到達目標：

- ① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
- ② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（Behavioral Economics）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第 1 回 導入（講義の進め方／担当決め）

第 2 回 プレゼンテーションの方法

第 3 回 文献講読その 1

第 4 回 文献講読その 2

第 5 回 文献講読その 3

第 6 回 文献講読その 4

第 7 回 文献講読その 5

第 8 回 文献講読その 6

第 9 回 文献講読その 7

第 10 回 文献講読その 8

第 11 回 文献紹介その 1

第 12 回 文献紹介その 2

第 13 回 文献紹介その 3

第 14 回 文献紹介その 4

第 15 回 文献紹介その 5

6. 成績評価方法：

（ ）筆記試験・（○）レポート[40%]・（ ）出席

（○）その他（発表態度）[60%]

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

9. その他：

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@m.tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

科目名：心理学研究演習Ⅳ／ Psychology (Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LM24211， **科目ナンバリング：**LHU-PSY606J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

犯罪・非行研究の展開

2. Course Title (授業題目)：

Trends in the Study of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する最新の研究知見を理解することを第一の目的とする。また、他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の2点である。

(1) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深める。

(2) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、最新の研究手法を修得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定
2. 社会心理学研究の発表・討議 (1)：攻撃性・攻撃行動
3. 社会心理学研究の発表・討議 (2)：怒り・憤怒
4. 社会心理学研究の発表・討議 (3)：暴力
5. 社会心理学研究の発表・討議 (4)：社会的迷惑行為
6. 社会心理学研究の発表・討議 (5)：不正行為
7. 社会心理学研究の発表・討議 (6)：紛争
8. 中間のまとめ：社会心理学と犯罪心理学の関連
9. 犯罪心理学研究の発表・討議 (1)：殺人・暴行・傷害
10. 犯罪心理学研究の発表・討議 (2)：DV, DaV
11. 犯罪心理学研究の発表・討議 (3)：ストーキング
12. 犯罪心理学研究の発表・討議 (4)：窃盗
13. 犯罪心理学研究の発表・討議 (5)：性犯罪
14. 犯罪心理学研究の発表・討議 (6)：テロリズム
15. 本授業の総括と今後の展開

6. 成績評価方法：

レポート (30%)，授業準備 (30%)，発表・討論参加 (40%)

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。本授業で取り上げる英語論文は授業内で指示する。また論文については、基本的には各自が印刷等の準備をする。なお、参考書等については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

9. その他：

履修状況によって、授業の運営形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で運営形態や担当を検討するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：心理学研究演習 V／ Psychology (Advanced Seminar) V

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LM14212， **科目ナンバリング：**LHU-PSY607J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

コミュニティと文化

2. Course Title (授業題目)：

Community and Culture

3. 授業の目的と概要：

この授業では、コミュニティ、文化、社会行動、集合現象などに関する社会心理学の論文を精密に読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。受講生は、事前に論文を読み、関連文献を調べて資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. 学習の到達目標：

1. コミュニティ・文化・社会行動に関する社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べて的確に発表する力を涵養する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入（授業の進め方の説明）
2. コミュニティの文化と変容①
3. コミュニティの文化と変容②
4. コミュニティの文化と変容③
5. 文化と問題対処行動①
6. 文化と問題対処行動②
7. 移動・アイデンティティ・適応行動①
8. 移動・アイデンティティ・適応行動②
9. 移動・アイデンティティ・適応行動③
10. 社会問題と集合行動①
11. 社会問題と集合行動②
12. 社会問題と集合行動③
13. アクション・リサーチ①
14. アクション・リサーチ②
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表（50%）、出席と討論参加（50%）

7. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

とりあげる論文を授業までに読み、十分に予習しておくことが必要である。

9. その他：

上に示した授業計画はおおよその予定であり、履修状況に応じて調整をすることがある。

科目名：心理学研究演習VI／ Psychology (Advanced Seminar) VI

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：倉元 直樹 (兼務教員)

講義コード：LM21203, **科目ナンバリング：**LHU-PSY608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：

Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：

量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。

英語論文の理解と執筆のために標準的な英語のテキストを選定しているが、受講者の希望によっては変更も可とする。

4. 学習の到達目標：

心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1 コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10 コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10 コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1 コマ)

6. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

7. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.
(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

8. 授業時間外学習：

担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

9. その他：

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：心理学総合演習Ⅰ／Psychology(Integration Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之、行場 次朗、辻本 昌弘、坂井 信之、荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM15505， **科目ナンバリング：**LHU-PSY609J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

特選題目研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Research on Special TopicsⅠ

3. 授業の目的と概要：

各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

4. 学習の到達目標：

各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 回目 ガイダンス

2 回目 発表と討議（1 組目）

3 回目 発表と討議（2 組目）

4 回目 発表と討議（3 組目）

5 回目 発表と討議（4 組目）

6 回目 発表と討議（5 組目）

7 回目 発表と討議（6 組目）

8 回目 発表と討議（7 組目）

9 回目 発表と討議（8 組目）

10 回目 発表と討議（9 組目）

11 回目 発表と討議（10 組目）

12 回目 発表と討議（11 組目）

13 回目 発表と討議（12 組目）

14 回目 発表と討議（13 組目）

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

発表（40%）、平常点（30%）、討論への参加（30%）

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

8. 授業時間外学習：

各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

9. その他：

履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：心理学総合演習Ⅱ／ Psychology(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之, 行場 次朗, 辻本 昌弘, 坂井 信之, 荒井 崇史 (教授、准教授)

講義コード：LM25505, **科目ナンバリング：**LHU-PSY610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

特選題目研究 Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Research on Special Topics Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

4. 学習の到達目標：

各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 回目 ガイダンス

2 回目 発表と討議 (1 組目)

3 回目 発表と討議 (2 組目)

4 回目 発表と討議 (3 組目)

5 回目 発表と討議 (4 組目)

6 回目 発表と討議 (5 組目)

7 回目 発表と討議 (6 組目)

8 回目 発表と討議 (7 組目)

9 回目 発表と討議 (8 組目)

10 回目 発表と討議 (9 組目)

11 回目 発表と討議 (10 組目)

12 回目 発表と討議 (11 組目)

13 回目 発表と討議 (12 組目)

14 回目 発表と討議 (13 組目)

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

発表 (40%), 平常点 (30%), 討論への参加 (30%)

7. 教科書および参考書：

特に使用しない。

8. 授業時間外学習：

各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

9. その他：

履修は原則として、心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：心理学研究実習Ⅰ／ Psychological MethodologyⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之. 行場 次朗. 辻本 昌弘. 坂井 信之. 荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM12306, **科目ナンバリング：**LHU-PSY611J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学実験技法実習Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Practice of Psychological MethodologyⅠ

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、常に新たな技法が開発され、実用化されている。優れた研究を実施するためには、こういった技法の理解や習熟が必要である。大学院生を対象として、心理学実験技法を学ぶ目的で開講する。

個別に必要な技法を中心に学ぶとともに、毎時間異なる基本メニューを確認する。

4. 学習の到達目標：

心理学実験技法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 社会的態度の測定
- 3回目 統計解析法
- 4回目 SPSS
- 5回目 動物の行動観察
- 6回目 記憶検索
- 7回目 鏡映描写
- 8回目 囚人のジレンマ
- 9回目 ステレオタイプ
- 10回目 感覚の尺度化
- 11回目 反応時間
- 12回目 幾何学的錯視
- 13回目 ポリグラフ
- 14回目 脳機能計測
- 15回目 応用心理学分野実験

6. 成績評価方法：

レポート (60%), 平常点 (40%)

7. 教科書および参考書：

実習中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。心理学研究実習ⅠとⅡを連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。

科目名：心理学研究実習Ⅱ／ Psychological Methodology II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：坂井 信之, 阿部 恒之, 行場 次朗, 辻本 昌弘, 荒井 崇史（教授、准教授）

講義コード：LM22307, **科目ナンバリング：**LHU-PSY612J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

心理学実験技法実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Practice of Psychological Methodology II

3. 授業の目的と概要：

心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、常に新たな技法が開発され、実用化されている。優れた研究を実施するためには、こういった技法の理解や習熟が必要である。大学院生を対象として、心理学実験技法を学ぶ目的で開講する。

個別に必要な技法を中心に学ぶとともに、毎時間異なる基本メニューを確認する。

4. 学習の到達目標：

心理学実験技法を実践的に学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1回目 図書館情報検索実習
- 2回目 心理の仕事（家裁調査官）
- 3回目 フィールドワークⅠ
- 4回目 フィールドワークⅡ
- 5回目 心理測定法
- 6回目 卒論修論中間発表会
- 7回目 WAIS-Ⅲ知能検査
- 8回目 ロールシャッハテストⅠ
- 9回目 ロールシャッハテストⅡ
- 10回目 感情評価（覚醒水準の測定）
- 11回目 カウンセリング
- 12回目 臨床心理学
- 13回目 心理の資格
- 14回目 社会調査会社における心理学の応用
- 15回目 通期課題のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート（60%）、平常点（40%）

7. 教科書および参考書：

実習中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

9. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。心理学研究実習ⅠとⅡを連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

授業計画に記されたメニューは変更の可能性があるが、変更の場合は事前に通知する。

科目名：実験心理学特論／ Experimental Psychology (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 恒之 (教授)

講義コード：LM13102, **科目ナンバリング：**LHU-PSY613J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ストレスと化粧の社会生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social psychophysiology of stress and cosmetic behavior

3. 授業の目的と概要：

化粧という日常行為を題材に, 具体的な研究例を学び, 社会生理心理学的アプローチの理解を深める。

キーワード： コルチゾール・アドレナリン・進化適応の環境・いやし・はげみ

4. 学習の到達目標：

社会生理心理学の重要トピックスを学び, 独力で研究を行う力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業はテキストに沿って進行するが, 状況に応じて内容を変更することがある。

1 回目 ガイダンス

2 回目 ストレス研究史・用語の定義

3 回目 生理学的基盤 1：交感神経副腎髄質系

4 回目 生理学的基盤 2：HPA 系

5 回目 生理学的測定法

6 回目 生理心理学の研究史

7 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 1：生活重大事

8 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 2：やっかい事と気晴らし

9 回目 化粧の文化史

10 回目 謎と研究

11 回目 実験室実験

12 回目 社会的文脈における実験

13 回目 ストレスホルモン分泌を促す心理的要因

14 回目 感情調節装置としての化粧

15 回目 まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート (50%), 平常点と 3 回程度の小レポート (50%)

7. 教科書および参考書：

ストレスと化粧の社会生理心理学 (阿部恒之著, フレグランスジャーナル社)

8. 授業時間外学習：

テキストを早い段階で通読すること。3 回程度小レポートを課すので, じっくり取り組んでほしい。

9. その他：

科目名：実験心理学特論／ Experimental Psychology (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：行場 次朗 (教授)

講義コード：LM21508, **科目ナンバリング：**LHU-PSY613J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

知覚・認知心理学の展開

2. Course Title (授業題目)：

Recent topics in perceptual and cognitive psychology

3. 授業の目的と概要：

外界の情報、あるいは自らの身体内の情報を、人間がどのような機構と機能により、受容し、統合し、解釈するかについて、心理学的研究を中心にして、最近の動向や知見を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

人間の感覚・知覚の機序及びその障害について、最近の知見から理解を深める。

人の認知や記憶、思考パターンの特性について、それらの障害も含めて、新しい知見を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 感覚モダリティと感覚閾、感覚順応に関する新しい知見
2. 視覚のはたらき：空間知覚 運動知覚、錯視に関する新しい研究動向
3. 物体知覚 顔認知に関する新しい知見
4. 色覚多様性、空間失認、物体失認に関する最近の研究
5. 聴覚系のはたらきと音声コミュニケーションに関する新たなアプローチ
6. 化学的感覚 嗅覚 味覚 体性感覚に関する新しい知見
7. クロスモーダル知覚と錯覚に関する最近の研究動向
8. 選択的注意と不注意と最近の応用例
9. 情報処理の二方向性：ボトムアップとトップダウン処理に関する新しい考え方
10. 短期記憶 ワーキングメモリ 心的操作に関する最近の研究
11. 意味記憶 潜在記憶 イメージに関する新しい知見
12. エピソード記憶 偽りの記憶 最近の研究動向
13. 宣言的記憶 手続き的記憶 スキーマ 新しい捉え方
14. 演繹と帰納 判断バイアス 新しいアプローチ
15. 認知と思考のゆがみと心の障害 最近の試み

6. 成績評価方法：

出席 20%、期末試験 80%

7. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しないが、以下の参考書を用意することが望ましい。

参考書：感覚・知覚・認知の基礎 乾 敏郎 (監修) (株)オーム社 ISBN 9784274211492

8. 授業時間外学習：

授業中に指定した資料や URL を通して、授業内容に関する情報や知識を収集すること。

9. その他：

オフィスアワーは特に設けないが、gyoba@m. tohoku. ac. jp にメールで問い合わせること

科目名：社会心理学特論／ Social Psychology (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：荒井 崇史（准教授）

講義コード：LM15307， **科目ナンバリング：**LHU-PSY614J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

犯罪・非行の社会心理学

2. Course Title (授業題目)：

Social Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：

本授業は、日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。

4. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- （1）司法・犯罪分野の制度や法律，各機関における活動や活動倫理を理解する。
- （2）犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体ガイダンス：司法・犯罪心理学の歴史
2. 犯罪・非行と社会心理学
3. 刑事司法制度の詳細：成人
4. 刑事司法制度の詳細：未成年
5. 犯罪統計を活用した犯罪研究
6. 犯罪・非行の原因：生物学的要因
7. 犯罪・非行の原因：心理学的要因
8. 犯罪・非行の原因：社会学的要因
9. 犯罪機会論
10. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメント
11. 犯罪者・非行少年の処遇
12. 犯罪捜査と社会心理学：プロファイリング
13. 犯罪捜査と社会心理学：取調べ
14. 犯罪予防と社会心理学
15. 本授業の総括と知識確認

6. 成績評価方法：

試験 60%，受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし，参考書を講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

初回の授業で紹介する参考文献を，予習として早いうちに通読することを求める。また，各回の授業は，それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって，各回の授業にあたり，それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。

9. その他：

学習の一環として，心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学特論／ Social Psychology (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘（准教授）

講義コード：LM25212， 科目ナンバリング：LHU-PSY614J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文化と人間行動

2. Course Title (授業題目)：

Culture and Human Behavior

3. 授業の目的と概要：

文化やコミュニティに関する理論や研究例をとりあげ、研究の系譜と主要な理論モデル、社会生態環境と適応、文化変容の諸相、現代社会における多文化主義などについて解説していく。

4. 学習の到達目標：

文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な理論と研究例を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化的存在としての人間
2. 人類の多様性と普遍性
3. 文化、進化、学習
4. 文化研究の系譜
5. 心理プロセスの文化差
6. 文化差の理論モデル
7. 人類の進化と適応
8. 社会生態環境への適応と文化
9. 近年の理論と論争
10. 異文化接触の類型と事例
11. 文化変容の理論モデル
12. 文化変容と対人関係
13. 国民国家とエスニシティ
14. 多文化主義の理念と実践
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜資料を配布するとともに参考書を紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進めます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

9. その他：

科目名：応用心理学特論／ Applied Psychology (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：坂井 信之（教授）

講義コード：LM23309， 科目ナンバリング：LHU-PSY615J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

神経・生理心理学

2. Course Title (授業題目)：

Neuroscience and Physiological Psychology

3. 授業の目的と概要：

ヒトの高次脳機能について、認知神経科学や行動神経科学領域の研究を中心にレビューする。

4. 学習の到達目標：

ヒトの心理機能の神経学的基盤を包括的に理解することにより、日常生活で現れる心理学的事象を支える神経基盤の問題を推定できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。

第1回 導入～脳神経系の構造および機能～

第2回 脳と神経系の構造

第3回 神経における情報伝達

第4回 大脳皮質における機能局在

第5回 脳神経系機能の研究手法

第6回 神経の可塑性と環境の影響

第7回 記憶、感情などの生理学的反応の機序について

第8回 感覚・知覚と脳神経系

第9回 運動と脳神経系

第10回 記憶と脳神経系

第11回 感情と脳神経系

第12回 動機づけと脳神経系

第13回 高次脳機能障害の概要

第14回 高次脳機能障害

第15回 精神疾患と脳神経系

6. 成績評価方法：

定期試験（70％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30％）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布・紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

9. その他：